

林きい子

（はやし） 小説家、舞踊家。

明治十七年十一月一日東京生れ、昭

和四十一年一月一日歿（ハサウエー元六七）。本名さち。別名さわらび、さわらび女史、一扇、宇治石、日向ひも、日向きもの、日向さん、日向さんと、日向のうらび、日向鉢武と結婚、さわらびの筆名で小説を發表。夫は後藝
女學校卒。日向輝武と結婚、さわらびの筆名で小説を發表。夫は後藝
術師林明壽（號柳波、童謡詩人）と再婚。のち一中節の節匠を経て舞
踊家としてちぢみ、童謡舞踊の振付、子供古典舞踊と稱して創作數百
を成した。昭和二十年日本舞踊協會の設立に參劃、終身理事となる。
銀閃會主宰。

著書『あしき舟』全一冊（さわらび名、前篇・明治二十七年十一月
一日、後篇・二十九年五月）二十六（日富山房）、『うめ子集』（同、
明治二十八年十一月）二十九（日富山房）、『うめ子集』（同、明治四
十一年八月五日川貞次刊、東京堂發賣）、『銀閃』（日向ひも名、
大正四年十一月五日）未出版社）、『灰と紫』（同、大正七年三月七
日富山房）等。

